

履 歴 書

(西曆) 年 月 日

(ふりがな)

氏 名： 性別：

生 年 月 日： 年 月 日生 (歳)

現 住 所： 〒

電話：

連 絡 先：

学 歴 (大学以上)：

(西曆) 年 月

〃 年 月

〃 年 月

〃 年 月

〃 年 月

学 位：(西曆) 年 月

免許・資格：

(西曆) 年 月

〃 年 月

〃 年 月

職 歴：

(西曆) 年 月～(西曆) 年 月

その他の学会活動, 受賞歴等：

(西曆) 年 月

〃 年 月

〃 年 月

上記のとおり相違ありません。

印

(自 筆 署 名)

主 要 業 績 目 録 等

(西暦) 年 月 日現在

氏 名 (自筆署名) _____

1. 著書

2. 学術論文

3. その他 作品, 学会発表等

その他 著書 件 論文 件 ほか () 件

(記 入 例)

履 歴 書

2018年 ○月 ○日
※日付は全て西暦で記入

(ふりがな) つくば たろう
氏 名： 筑波 太郎 性別： 男
※ 戸籍名のほか、旧姓等を併記してもかまわない。(例 茨城(戸籍名:筑波)花子等)
生 年 月 日： 19○○年 ○月 ○日生 (○○歳)
現 住 所： 〒 - 茨城県○○市○○1-1-1
電話：029-000-0000
連 絡 先： 自宅 電話&Fax 029-000-0000 携帯 080-0000-0000
E-mail： xxxxxxxx@xx.aaaa.ne.jp
勤務先 茨城県つくば市○○○4-3-15
○○大学○○学部○○学科
電話 029-858-0000 Fax 029-858-0000
E-mail： xxxxxxxx@xx.tsukuba-tech.ac.jp
※自宅あるいは勤務先等、連絡可能な住所、連絡手段を記載すること。

学 歴 (大学以上)：

1988年 4月 ○○大学○○学部○○学科 入学
1992年 3月 同 上 卒業
1994年 4月 ○○○専門学校○○科 入学
1997年 3月 同 上 卒業
1998年 4月 ○○大学○○学部研究生 入学
1999年 3月 同 上 終了
2000年 4月 ○○大学大学院修士課程○○研究科○○○専攻 入学
2002年 3月 同 上 修了
2002年 4月 ○○大学大学院博士課程○○研究科○○○専攻 入学
2005年 3月 同 上 修了

- ※ 募集組織に関連する免許・資格(例：はり師、きゅう師、理学療法士、看護師・保健師、教員免許等)がある場合、受験資格あるいは免許を取得した学校・養成施設等も記入すること。
- ※ 中途退学の場合は、退学と記入すること。
博士課程を単位取得の上退学した場合は、単位取得退学と記入すること。
- ※ 研究生等の経歴がある場合はこの段に記入すること。

学 位：

2002年 3月 修士 (○○) (○○大学：修 ○○○○号)
2005年 3月 博士 (○○) (○○大学：博甲○○○○号)
※ 学位の記入(博士(○○)あるいは○○博士)は取得年代・教育機関により異なる
外国の大学等の場合は国名(および都市名)も記入すること。

免許・資格：

1997年 4月 ○○○○登録 (第111111号)
2005年 7月 日本○○○○学会認定○○○ (第1111号)
※ 募集組織ならびに本人の研究分野等に関連する免許・資格を有する場合は記入すること。

職 歴：(全ての職歴を記載すること。)

1992年 4月 1日 ～ 1994年 3月 31日 ○○○○○○ (株) ○○部
1997年 4月 1日 ～ 1998年 3月 31日 ○○○○○○○○
1999年 4月 1日 ～ 2000年 3月 31日 ○○○○○○ (非常勤)

2005年 4月 1日 ～ 2008年 3月 31日 ○○研究所○○部 研究員

2008年 4月 1日 ～ 現在 ○○大学○○学部○○学科 助教

※ 原則として常勤の職歴のみとし、職名等を正確に記入すること。ただし、学歴と職歴を通じて空白となる期間があり、その間に非常勤等の職歴がある場合にはこれを記入して履歴に切れ目がないようにすること。

※ 外国の機関等における職歴の場合は、その国名も併せて記入すること。

その他の学会活動、受賞歴等：

1997年 4月 ～ 現在 日本○○○学会会員

2013年 7月 ～ 現在 日本○○○○学会評議員

2017年 9月 ～ 現在 ○○県○○○審査会委員

2017年 1月 10th ○○○Conference Best Poster Award (London)

2018年 4月 ○○○財団○○賞受賞

※ 本人の専攻、研究分野等に関連した学会活動、社会活動、受賞歴等の事項について主なものを記入すること。

上記のとおり相違ありません。

○ ○ ○ ○ 印

(自 筆 署 名)

主要業績目録等

2018年 ○月 ○日現在

氏名 (自筆署名) ○ ○ ○ ○

- ※ 最近5年間のものの中から、重要と思われる業績を、著書、学術論文、作品等をあわせて5件を記載する。ただし、最近5年以前の業績であっても、特に重要な位置づけができるものについては、1件に限り追加することができる。(最大6件まで記載することができる。)
- ※ 著書、学術論文、作品ごとに最近のものから順に記載する。
- ※ 著者リストの本人の氏名に下線をひくこと。
- ※ 印刷中のものは原則的には業績に含まれない。ただし、業績が5件未満の場合や代表的なものは業績の中に含めることができる。この場合は、発行者側の査読等を経て正式に受理されたもので、「印刷中」と明記すること。(受理証明要)

1. 著書

- ※ 単著(あるいは著書全体を共著)で執筆した場合: 著者リスト. 著書名. 発行所(発行地). 発表年; 総ページ数. (単著, 共著の別)
- ※ 分担執筆の場合: 編集者名. 著書名. 発行所(発行地). 発表年; 総ページ数. (共著)
分担著者リスト: 分担項目名. p. ○○-○○を分担執筆.

(記載例)

- ・筑波花子: 聴覚・視覚障害者の大学教育 第2版. 筑波出版(つくば). 2018; 総350ページ. (単著)
- ・Tsukuba H, Ibaraki T. Modern education and disability. Tsukuba Press(Tsukuba), 2018;p.1-350. (共著)
- ・茨城太郎, 筑波一郎編. 視覚障害学生に対する情報保障. 筑波出版(つくば). 2017; 総500ページ. (共著)
筑波花子: 立体模型を用いた解剖実習. p.285-295を分担執筆.
筑波花子, 筑波太郎: DAISYを用いた医療教育. p.296-300を分担執筆.
- ・Tsukuba T, Tsukuba J, eds. Progress in E-learning, 2nd, Tsukuba Press (Tsukuba), 2017;p.1-500. (共著)
Tsukuba H: E-learning of clinical medicine. p.26-36を分担執筆.

2. 学術論文

- ※ 著者リスト. 論文名. 雑誌名. 発表年; 巻(号): ページ
- ※ 筆頭者の場合は、「筆頭」と記入のこと。共著の場合は、何人の共著の何番目の著者が分かるようにすること。
- ※ JournalのImpact Factor(トムソン・ロイター社)(あるいは無料サイトSCImago Journal & Country RankのHPによるCites/Doc. (2years)で代用可; <http://www.scimagojr.com/index.php>)を論文毎に記入すること。(任意)
- ※ 論文の被引用数(検索源は任意)(検索例: 無料サイトGoogle Scholarでの検索, <http://scholar.google.co.jp/>)を論文毎に記入すること。(任意)
- ※ 査読論文等の場合は、「査読論文」と記入のこと。

(記載例)

- ・筑波花子, 筑波太郎, 筑波次郎, 他. 聴覚障害教育におけるマルチメディアの活用. ○○○学会誌. 2018;14(1):120-130. 「筆頭」, 「査読論文」(IF=0.23, 被引用数=5)
- ・Tsukuba T, Tsukuba J, Tsukuba H, et al. A new e-learning method for students with low vision. Education of Disabilities. 2017;32(1):26-31. (6人共著, 3番目), 「査読論文」(IF=2.23, 被引用数=58)

3. その他 作品, 学会発表等

※ 作品の場合: 作者名. 作品名. 種類, 作品の規格. 発表又は所蔵等の名称, 発表年月日
(該当作品で表彰等がある場合は受賞名と受賞年月日を記載すること)

※ 学会発表: 演者名. 演題名(会). 学会名(抄録集); 発表年月日(開催地)
(抄録集・proceedings がある場合は, 著書や学術論文に準じた記載を追記する)

(記載例)

- ・筑波花子. ○○○ (作品名). ○○○ (種類), ○○○ (作品の規格). ○○○○○○ (発表又は所蔵等の名称), 2017-4-8. (○○○○賞受賞, 2017-10-1)
- ・筑波花子, 筑波一郎, 筑波次郎, 他. ●●●の1例(会). 第50回東西統合医学会; 2018-10-1 (つくば).
- ・Tsukuba T, Tsukuba J, Tsukuba H, et al. Acupuncture therapy in XYZ syndrome. The 8th International Congress of Integrative Medicine; 2017-4-5 (Tsukuba).
(Tsukuba T, Tsukuba J, Tsukuba H, et al. Acupuncture therapy in XYZ syndrome. World Integrative Medicine; 2017; 50(suppl): 229-230.)

その他 著書 ○件 論文 ○件 ほかに(○○) ○件

※ 主要業績5件を除いた著書, 論文, ほかに(○○)の業績の件数を記載する。

(記載例)

その他	著書	5件	論文	10件
	作品	2件	学会発表	20件